

大学の世界展開力強化事業（平成28年度採択）事後評価結果

大 学 名	東京芸術大学
整理番号	B2
事 業 名	日 ASEAN 芸術文化交流が導く多角的プロモーション ～協働社会実践を通じた心のインフラと質保証フレームの構築～

◇大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

総括評価 <b style="font-size: 2em;">A	事業計画どおりの成果をあげており、事業目的は実現された。
<p>コメント</p> <p>本事業は、カンボジア、ラオス、ミャンマー、ベトナム諸国（CLMV）ならびにタイを代表する8つの国立芸術大学と連携することで、高等教育機関における芸術教育プログラムを充実させるとともに、教育研究に関わる質保証システムを構築し、グローバルに活躍できる芸術系人材を育成することを目的としている。</p> <p>事業展開では、連携大学における新コースの開設やダブルディグリープログラムのための協定締結、学内での「東京藝大アジア・アートイニシアティブ」の設立、コロナ禍の対応として、オンライン・プラットフォーム「TMOP（Tokyo University of the Arts≠Mekong Online Platform）」を開設した点は評価できる。特に、教職員と学生のユニットを構成し双方の伝統的・現代的技術文化を学び合う共同授業を実施したこと、また、連携機関の所在する都市・地域コミュニティを巻き込んだ協働社会実践（アートプロジェクト）を中核に据えつつ、交換留学等の学生交流の整備・促進や連携機関の若手教員の交流といった事業を行ったことを評価したい。</p> <p>一方で、派遣・受入の多くが3ヶ月未満の短期（ユニット派遣・受入を含む）であったことや、派遣・受入国に偏りが見られたことは課題である。中長期にわたる派遣・受入の促進や、派遣・受入国の拡充に関して、目標達成に至らなかった理由を分析する等、改善に向けたより積極的な対応が必要である。また、コロナ禍で実施したオンライン交流への参加者が計画よりも少ない結果となったことを鑑み、オンラインで実施する交流プログラムの募集方法やプログラム内容に関して分析し、その結果を今後のプログラム展開に活かすべく対応が望まれる。</p> <p>最後に、大学の世界展開力強化事業による補助期間は終了したが、引き続き質保証を伴う発展的な事業展開の実施によって、我が国の大学教育を牽引し、更なるグローバル展開力の強化に寄与されることに期待する。</p>	